

お忙しくても、約 2 分間で読めます

ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

地道に商いに励んだ結果が利益である 伊藤 忠兵衛 (伊藤忠商事創業者)

1. 代表的な近江商人の一人で、伊藤忠商事や丸紅の礎を築いた初代伊藤忠兵衛は、「利真於勤 (利は勤むるに於いて真なり)」という言葉を書右の銘にしていた。この言葉が示すのは、真の利益とは、地道に商いに励んだ結果として得られたものだけだ、ということである。
2. この言葉に基づいて、投機的な売り買いや、買い占めや売り惜しみなどによる相場の操作、相手の弱みに付け込む強気の商いなどは禁じていた。小手先のテクニックや他人に無理を強いることで儲けても、結局は信頼を損ねて家業長久の妨げになるからだ。こうしたやり方で利益を上げたとしても、正当な利益としては認めないという厳格なルールを、忠兵衛は自分と従業員とに課したのである。
3. 利益の正当性にこだわる考え方は、近江商人全般に共通していた。利益を見るときに、彼らは「結果」である数字を評価するだけではなかった。どのようにして儲けたかという「プロセス」を極めて重視していた。こうすることによって、目先の誘惑に打ち勝ち、ビジネスの本道を踏み外さないことを常に心掛けていた。

(参考:「日経トップリーダー」2011年2月号)

幹部への活きた言葉

手取り足取り教える

佐々木 常夫 (東レ経営研究所特別顧問)

1. 部下の中には、放っておいても仕事をこなす人もいる。そんな部下はそのままでもいい。だが普通の人にはそうはいかない。「こうやってごらん」とアドバイスするなど、手取り足取り教えてあげることも時には必要になってくる。丁寧に世話をしてあげるのも、課長の役目なのだ。
2. 課長とは、部下が幸せをつかめるように道を照らしてあげる役目ではないかと考える。仕事を成就させる過程では多くの困難や問題、つらいこともある。だがそれが完成したときの喜び、あるいは達成感や幸福感には、何ものにも代えがたいものがあるのではないだろうか。

(参考:「週刊東洋経済」:2011年1月15日号)

人事・労務について

アイデアを生み出す社風

(バンダイ・玩具メーカー)

1. 7割は失敗するものだと割り切る。万全を尽くして発売しても、3割程度しか成功したと呼べる商品は生まれない。
2. 失敗は挑戦の結果だと評価する。失敗は、挑戦した時にしか生まれない。失敗の大きさは、その人物が周囲を巻き込む能力の高さを示す。
3. 部門間異動を進めて、部署の鮮度を維持。扱う業種が広く、部門間の異動は転職に近いが、5年程度で積極的に異動させて部門の硬直化を防ぐ。

(参考:「日経ビジネス」2011年2月7日号)

古典に学ぶ

窮すれば通ず

「窮きゆうすれば則ちすなわ変ず、変ずれば則ちすなわ通ず」

(訳) 易経という古典にある言葉ですが、「窮する」とは行き詰まるということです。ですから、「ものごとが究極まで進行して行き詰まると、そこに変化が生じてくる。変化が生じると、新しい道が開けてくる」こんな意味になるかと思います。(参考:守屋 洋「リーダーのための中国古典」:日経ビジネス人文庫)